



小牧市民病院 副院長

内藤 和行

今月の診断書 No.349

健康診断(人間ドック)は、果たして有益か？



健康大国日本

日本は男女とも長い平均寿命を誇り、WHO調査でもわが国はもともと進んだ「健康大国」とされています。その原動力が優れた国民皆保険制度にあるといわれていますが、もう一つに、世界で最も整備された「健康診断(健診)」の意義も取りざたされています。

健康診断の意義

皆さんの多くが「健康診断とは何？」「健康診断は、本当に意味があるの？」という質問に対する明確な解答を聞かれたことはないと思います。『広辞苑』では、健診は、「病気の予防・早期発見のために医師が行う診断」とあり、予防医療の中の健康状態の把握と病気の早期発見を担うとされます。

また、健診には、法律に基づく対策型と人間ドックといわれる任意型の二つがあります。前者は母子・学童児・老人という限られた対象を持ち、がん・結核予防・労働安全など明確な目的で行われる健診で、古くから提唱され(ドーベル、1861年)てきました。程度の差はあれ、世界中でハイリスク集団における病気の予防を目的として行われてきました。それに対し、後者はわが国独自の健診システムで、戦後に始まった浅い歴史しかありません。

人間ドックとは

人間ドックは昭和29年に東京第一病院・聖路加国際病院で始められ、当初、「短期入院院総合身体検査」と名づけられました。この時代になぜ人間ドックかといいますが、それまで死因の一位であった結核に替わり、早期発見やハイリスク集団の発見が重要な脳卒中・がんが一位・二位を占めるようになったこと、検査の中央化・近代化で大量の検査ができるようになったことが挙げられます。

現在、がんや生活習慣病が死因の大部分を占めることを考えると、人間ドックという健診システムには先見の明があり、わが国の健康維持に大きく役立つと思います。

例えば、胃がんや大腸がんが早期発見される確率は、それぞれ77.9%、74.2%と大変高く、法定健診の確率をはるかに上回っています。また、がん全体では、図に示すように、男性に胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、女性に乳がん、胃がん、大腸がん、子宮がんが多く発見されています。

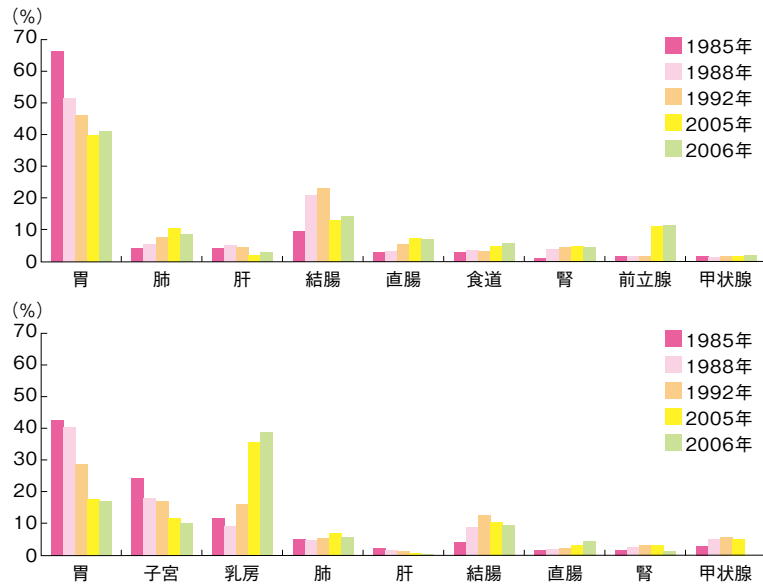


図. 「人間ドックで発見されたがんの年次別占有率」(上段：男性、下段：女性、人間ドック全国集計、2006)

す。この人間ドックの意義は、対象や目的が限定されていないため判定が総合的で、医師が保健指導をすることにあり、このことが疾病の早期発見の確率を高め、事後フォローで発病予防ができることにつながっています。

日本はこれから急速に高齢化が進むため、「健康な老人」であり続けることが、自身、そして家族、さらには社会に対しての責務であり、人間ドックがその一助になることを理解して欲しいと思います。

問合先 市民病院(☎76-4131)